No.626
2026.11.16

KINZOKU DANCHI NEWS Since1974

金属団地ニュース



岐阜県金属工業団地協同組合

10月度月例会開催

10月19日（月）組合研修センターにて月例会を開催し、産業保健エンリッチ株式会社 代表取締役・保健師 豊田将之様、ぎふ健康投資推進協議会connect HuB T 細野裕子様をお招きして『経営における人的健康投資とその活用』～健康経営と安全衛生～、『人手不足時代に勝ちのこる製造業の経営戦略』― AI・DX× 健康経営で実現する生産性向上と人材定着―（補助金を活用して「人」と「設備」へ投資）について講演をしていただきました。



心身の健康は「労働力の安定」や「仕事の質」に直結し、安心して働ける環境づくりにつながります。人口減少が進むなかで、人や設備への「健康投資」は単なるコストではなく、企業の未来をつくる戦略的な投資です。法令を遵守するだけでなく、健康管理の仕組みを整えて社員を守り抜くことが、結果として企業の生産性を高め、継続的な発展を支える不可欠な基盤になると実感しました。

株式会社 亀山鉄工所 会長 髙井紘司様　ご逝去



株式会社亀山鉄工所 会長 髙井紘司様が令和8年9月23日、満84歳をもって永眠されました。

髙井紘司様のご逝去に謹んで哀悼の意を表します。

なお葬儀式は近親者のみでしめやかに執り行われました。

代表者会議を開催

10月23日（金）18時より柳ヶ瀬にありますEnzaにて代表者会議を開催いたしました。鳥山理事長の挨拶のあと、洞田副理事長に乾杯のご発声をいただき、懇親会へ移りました。懇親会では、代表者同士が近況報告やざっくばらんな話に花を咲かせ懇親を深め、組織活性化を図りました。最後は山村副理事長の一本締めをもって散会いたしました。



令和８年度 金属団地労働衛生大会



本年度の全国労働衛生週間は、**【ひとりひとりが貴重な人材 心も体も健やかに みんな生き生き健康職場】**をスローガンに展開されました。毎年9月1日から30日までを準備期間、10月1日から7日までを本週間とし、各職場での巡視やスローガンの掲示、講習会などが実施され、労働衛生に関する意識を高めて職場の自主的な活動を促し、労働者の健康確保と誰もが安心して働ける職場づくりを目指す取り組みです。

金属団地では、9月17日に準備パトロールを行い、10月2日に本大会を実施いたしました。10月2日朝8時30分より、各社事前に行われた準備パトロールでの指摘事項改善を中心にパトロールが開始され、協議会役員は、岐阜労働基準監督署の菅井主任監督官同行のもと、(株)豊菱製作所さん、(株)鵜飼さん、(有)飯尾工業所さんの3社を巡回いたしました。







ポスターの掲示、食堂及びトイレ等の衛生面、工場内の環境等、各社しっかりと管理されており、菅井監督官からも重大な改善の指摘が出ることなく、常日頃から、より良い職場環境づくりに配慮をされていることを実感いたしました。その後、組合研修センター 3階集会場にて、金属団地組合員企業による『労働衛生大会』が10時から開催されました。







副会長挨拶の後、第1班から第3班の各委員長さんから委員会ごとに取りまとめたパトロールの結果を発表して頂き、菅井監督官から今回行われたパトロールの総評、また労働衛生を取り巻く最近の課題として、治療と就業の両立支援、メンタルヘルス対策、過重労働による健康障害防止対策、化学物質による健康障害防止に関する取り組みについてもご説明いただきました。

病気や治療を抱えながらも働き続ける人が増えるなかでの、治療と仕事の両立支援や、ストレスチェック制度などのメンタルヘルス対策を推進し、働きやすい職場環境を整えることは、今後ますます重要になっていきます。また、長時間労働や過重労働による健康障害を防ぐためにも、日頃から労働時間や従業員の健康状態に目を配ることが求められています。さらに、化学物質については、現場

で取り扱う物質の危険性・有害性を正しく把握し、適切な管理を行うことが必要です。



衛生大会後半は、昨年に引き続き、労働衛生コンサルタントの児玉氏による『職場を束ねるリーダーの処方箋　―金属工業の現場を強くするメンタルヘルス―』と題して講演をして頂きました。

冒頭でアイスブレイクとして、8名ほどのグループに分かれ、フラフープを一人ひとりの人差し指に乗せ、全員で息を合わせながら地面まで下ろすという簡単なゲームを行いました。一見すると簡単そうに思えるこのゲームですが、実際にやってみるとなかなか思うように進まず、声を掛け合いながら協力することの難しさと大切さを、楽しみながら体験することができました。



講演では、メンタルヘルスをテーマに、人口動態や「人生100年時代」、現代の若者の労働価値観などを踏まえ、ものづくり企業における「人」の重要性についてお話しいただきました。現場を束ねるリーダーは、部下や周囲の変化に気を配る立場である一方、自身もさまざまなストレスを抱えやすい立場です。そこで、ストレスによる心身の反応や対処方法、怒りとの向き合い方、部下との接し方や職場でのNGワードなど、リーダー自身の心の健康と、周囲との良好な関係づくりについて学びました。

人材の確保や定着が課題となる中、リーダー自身が心身ともに健康であることは、職場全体の健康にもつながります。今回の講演を通じて、自分自身の状態に気づくこと、そして相手を理解し、互いに声を掛け合うことの大切さを改めて考える機会となりました。

また、今回のパトロールの結果、菅井主任監督官より優良事業場として(株)鵜飼さんが推薦されました。

監督官総評



岐阜労働基準監督署　第二方面主任監督官
菅井　直哉

岐阜県金属工業団地協同組合の皆様におかれましては、日頃より労働基準行政の推進に格別の御理解、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、先日は衛生大会に出席させていただきありがとうございました。

さて、今年度の全国労働衛生週間は、「**ひとりひとりが貴重な人材　心も体も健やかに　みんな生き生き健康職場**」をスローガンとして、労働衛生水準のより一層の向上及び労働衛生意識の高揚を図るとともに、自主的な労働衛生管理活動の定着を目指して、事業者及び労働者が連携・協力して取り組むこととされました。

以下、実施事項を抜粋してご紹介します。

1　治療と就業の両立支援対策の推進
2　メンタルヘルス対策の推進
3　過重労働による健康障害防止のための総合対策
4　熱中症予防対策の推進
5　化学物質による健康障害防止対策
6　作業環境管理の推進
7　粉じん障害防止対策の徹底

衛生大会で行われたパトロールにおいては、これらの事項を中心に各社の衛生管理活動の状況を確認させていただきました。

各社に共通して認められた事項として、粉じん作業（グラインダーによる研磨、バリ取りやアーク溶接など）を行う労働者が適切な呼吸用保護具を使用しており、日々のたい積粉じん等の清掃により作業場が清潔に保たれていることが確認できました。

また、作業場だけでなく更衣室、トイレ等の施設も清潔に保たれており、日頃の清掃が行き届いていることが認められました。

以下、好事例として皆さまに参考としていただきたい事項を紹介いたします。

・残業時間の見える化【過重労働による健康障害防止のための総合対策】

労働者毎の残業時間の日次累計をグラフ・一覧表にして掲示しており、36協定の限度時間に対して各労働者が何時間残業したのか、管理者や本人が容易に把握できるようになっていました。

業務量・人員配置の調整や業務支援等がしやすくなり、長時間労働の抑制が期待できる取組です。

・空調服とアイスベストの併用【熱中症予防対策の推進】

熱中症予防のため、電動ファン付き空調服に加えてアイスベスト（保冷剤を冷凍庫に常備）を支給し、使用させているとのことでした。

温度・湿度が上がるほど、空調服のみでは十分に身体を冷やすことが難しくなりますが、アイスベストを併用することで、効果的に熱中症のリスクを下げることが期待できる取組です。

次に、この場を借りて皆さまに再確認いただきたい事項として、２点紹介いたします。

1点目は「化学物質リスクアセスメントの実施」です。

多くの企業において、洗浄や払拭、塗装等の業務に化学物質を使用していることと思いますが、安全データシート（SDS）交付義務の対象となる物質の取扱いを行うすべての事業場において、化学物質リスクアセスメントが義務付けられています。

リスクアセスメントは、設備・機器の爆発や引火などのおそれ（化学物質の危険性に基づくリスク）と、労働者の健康に悪影響をおよぼすおそれ（化学物質の有害性に基づくリスク）の両方について行う必要があります。

化学物質の危険性のリスクを見積もる場合、爆発や引火が生じたときの被害の大きさとその発生確率からリスクを見積もる方法などがあります。化学物質の有害性を見積もる場合、作業場の気中濃度を測定し、リスクアセスメント対象物質のばく露限界値と比較する方法（実測法）によりリスクを見積もる方法、実測法が難しい場合などでは、気中濃度を推定し、ばく露限界値と比較する方法（推定法）などによりリスクを見積もる方法があります。

化学物質のリスクアセスメントを支援するため、厚生労働省では様々な支援ツールを作成しています（https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/kag/ankgc07.htm）。

また、厚生労働省以外でも、国内外の研究機関が様々なリスクアセスメント支援ツールを開発し、公開しています。各ツールの特色や作業内容、事業場の状況などを考慮した上で、適切なツールを取り入れて、リスクの見積もりに役立てて下さい。なお、各ツールでは主にリスクを見積もることを支援しているため、ツールでリスクを見積もった後は見積もった結果に基づいてリスク低減措置の内容の検討が必要となります。

対象物質を取り扱う職場におかれては、リスクアセスメントを行い、より適切な対策を取っていただきますようお願いします。

2点目は「メンタルヘルス対策の推進」です。

精神障害による労災支給決定件数が過去最高になる中、小規模事業場を含めたメンタルヘルス対策の推進が重要となっています。

事業者は、自らがストレスチェック制度を含めた事業場におけるメンタルヘルスケアを積極的に推進することを表明するとともに、衛生委員会等において十分調査審議を行い、「心の健康づくり計画」やストレスチェック制度の実施方法等に関する規程を策定する必要があります。

また、その実施に当たってはストレスチェック制度の活用や職場環境等の改善を通じて、メンタルヘルス不調を未然に防止する「一次予防」、メンタルヘルス不調を早期に発見し適切な措置を行う「二次予防」及びメンタルヘルス不調となった労働者の職場復帰の支援等を行う「三次予防」が円滑に行われるようにする必要があります。これらの取組みにおいては教育研修・情報提供を行い、「４つのケア（セルフケア、ラインによるケア、事業場内産業保健スタッフ等によるケア、事業場外資源によるケア）」を効果的に推進し、職場環境等の改善、メンタルヘルス不調への対応、休業者の職場復帰のための支援等が円滑に行われるようにしましょう。

なお、令和10年４月１日からは、労働者数50人未満の事業場にもストレスチェックが義務化されますので、早めの準備をお願いいたします。

各企業におかれては、職場の実態に即した形で、ストレスチェック制度を含めたメンタルヘルスケアの実施に積極的に取り組んでいただくようお願いいたします。

最後になりますが、皆様の日頃の安全衛生活動が実りあるものとなるようお祈り申し上げます。



シャアがくる

団地ニュース読者諸兄に置かれては、アニメ作品『機動戦士ガンダム』は知識豊富のことと存じますが、簡単にご説明します。作中には、卓越した直感や先読みの能力を持つ『ニュータイプ』と呼ばれる新人類が登場します。主人公のアムロは天性の才能で覚醒していくのですが、そのライバルであるシャアは、どれほど努力してもその領域に届かず、強い劣等感を抱いていました。（尚、以下のパートは、「ふいご」を三倍速でご執筆される、ペンネーム『赤い彗星』様とは何ら関係ない事を予め添えさせていただきます。）

最終決戦で、シャアは搭乗者の思考を機械的に増幅する特殊なロボット（ジオング）に乗り込みます。そのテクノロジーの補助を得て、初めて天才アムロの動きを捉えられた瞬間、彼は思わず叫びました。『見える、私にも敵が見えるぞ！』と。

自力では到達できなかった高みを、機械の力を借りて初めて知覚する――この構図は、現代の私たちがAIという知的外骨格を手に入れた姿と重なります。

シャアにとってのジオングがそうであったように、AIは全人類にとっての『知的外骨格』です。人間が一生をかけても読み切れない厖大な文献の横断や、何千通りものコード・論理パターンの検証をわずか数秒でこなします。これは、生身の試行錯誤では到底たどり着けなかった『知の深層』へのアクセスを可能にしました。錯覚かもしれませんが、これには大きな知的興奮も伴います。AIにより、あれもできる、これもできるという感覚を得て、久々に時間を忘れてツールづくり等に没頭した経験がある方も多いかと思います。

一方で、危うさもあります。シャアはテクノロジーで知覚を開いた直後、機体を失い、最後は生身のフェンシングによる泥臭い闘争へと引き戻されました。しかも、その肉弾戦ですらアムロ君を仕留めきれないあたりが、シャアおじさんの悲哀です（涙）。（だから我々は好きなんですけどね、このシャアこと赤い彗星さんを。）現代には、AIが提示する高次元の最適解を受け取るだけで、人間が『自分自身も深く理解した』と錯覚してしまうリスクが存在します。自ら汗をかいて試行錯誤を重ねていない知は脆く、前提が崩れた瞬間に思考停止に陥ってしまいます。

さらに、新世代（＝主人公アムロ君）が、こうした新能力は本来『人類の相互理解』を目指すことに使うと拡張的に思考したのに対して、シャアおじさんは『敵が見える』と叫んだ点も見逃せません。ゲームチェンジャーである道具（AI）を、市場競争の出し抜きや選別といった、相手を打倒するための局所的な武器としか捉えられない辺りも、物悲しい感じです。ルックスは頗る美麗で、断然イケおじなんですけどね、シャアは。

シャアの「見える、私にも敵が見えるぞ」という言葉は、自らの限界を知る者がテクノロジーの力を借りて極限の領域に手を伸ばした、誇りと哀愁が入り混じった瞬間でした。

数兆回の試行をこなすAIを前にして、私たちが「見えるぞ」と歓喜するとき、それは真の知性の獲得なのか、それとも巨大な計算機の出力を覗き込んでいるだけのかりそめの覚醒なのか悩ましい所です。やはり新時代には、パーマヘアの期待の星の誕生が待たれるところです。（他力本願）

マルフ

金属団地青年部 家族親睦BBQ開催

10月11日（日）、金属団地青年部の恒例行事となっている家族親睦BBQを開催しました。会場は、昨年に引き続き「BBQハウスひぐらし」。自然豊かな山あいに位置し、近くには川も流れる、家族での交流にはぴったりの場所です。当日は天候にも恵まれ、10月中旬とは思えない30℃を超える暑さとなりました。しかし、会場は山の中ということもあり、比較的過ごしやすく、秋晴れの下でBBQを楽しむことができました。

今回のBBQでは、初参加となる三島ご夫妻をお迎えするとともに、今年誕生した徳田家の長女、衣央莉ちゃんも参加してくれました。新しい顔ぶれも加わり、例年以上ににぎやかで、和やかな雰囲気に包まれました。参加者は皆さん車での来場だったため、ノンアルコールでの開催となりましたが、お酒がなくとも会話は弾み、終始笑顔の絶えない楽しい時間となりました。

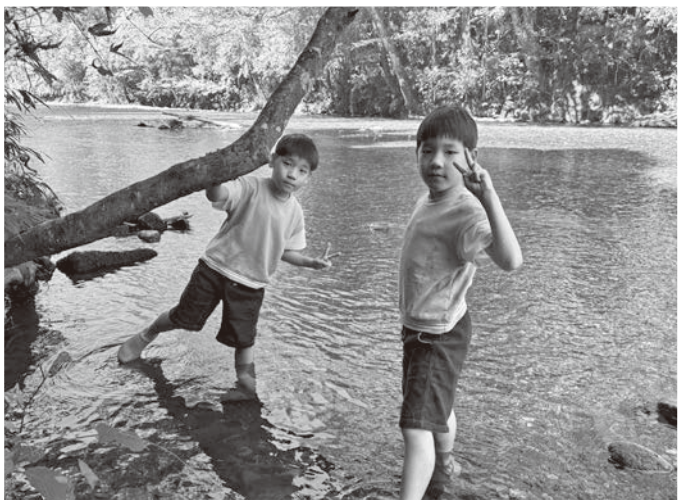
また、会場近くの川では、子供たちが元気いっぱいに水遊びを楽しむ姿も見られました。大人たちがおいしいお肉に舌鼓を打ちながら交流を深める一方、子供たちも自然の中で思い思いの時間を過ごし、家族みんなで楽しめる一日となりました。

普段の青年部活動では、仕事や青年部事業について意見を交わす機会が中心となりますが、今回のように奥様方や子供たちも交えて交流することで、お互いの新たな一面を知ることができました。会員同士の親睦はもちろん、家族同士のつながりを深める貴重な機会になったと感じています。

日頃、仕事や青年部活動に取り組む中で、家族との時間の大切さを改めて実感するとともに、良い家族孝行にもなったのではないでしょうか。

最後になりますが、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。今後も青年部の仲間だけでなく、そのご家族にも楽しんでいただけるような交流の機会を大切にしていきたいと思います。





『ゲージの中の四番打者』

三島精器株式会社
三 島 壮 一

ガコン

薄暗いゲージの奥で機械が鈍い音を立て、鉄のアームがぐるりと回る。
手にした木製バットを握り直し、飛んでくる白球をじっと待つ。

カーン！

休日の私は、結構な頻度でバッティングセンターにいる。
かなり野球好きな私だが、実は守備や走塁には全く興味がない。とにかく打撃にしか興味がない。実は最近、このバッティングセンターで打ち込んでいたところをスカウトされて草野球チームに入ったのだが、そこで「どこ守れる？」と聞かれた際、「指名打者なら！」と元気に答えそうになって慌てて飲み込んだ。
もっとも、打撃が好きだと言っても、私は中学も高校も剣道部で竹刀を振っていた人間だ。打撃の基礎など教わったこともない。道場の鏡の前で、山崎武司のモノマネをしながら竹刀をフルスイングしていて怒られたことなら、ある。
そのため、プロ野球の選手のフォームを参考に、自分なりに解釈して振り回す、完全なる「我流」である。ゆえに、毎回フォームがコロコロ変わる。

ガコン

再びマシンが動く。我流スイング（※この日は門田博光）で迎え撃つ。

ボテッ

打球は力なく転がる。見事なセカンドゴロ。「負けに不思議の負けなし」と言うが、
私のこの凡打にも一切の不思議はない。単に打ち損じである。

ガコン

少し息を吐いて構え直す。バットの軌道と体の軸だけを意識する。

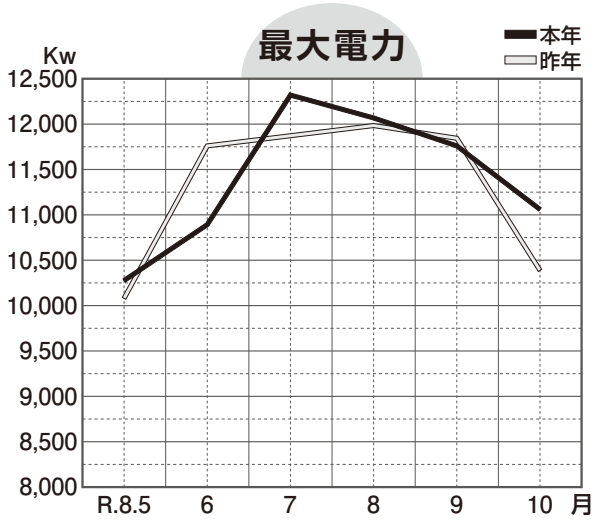
カーン！

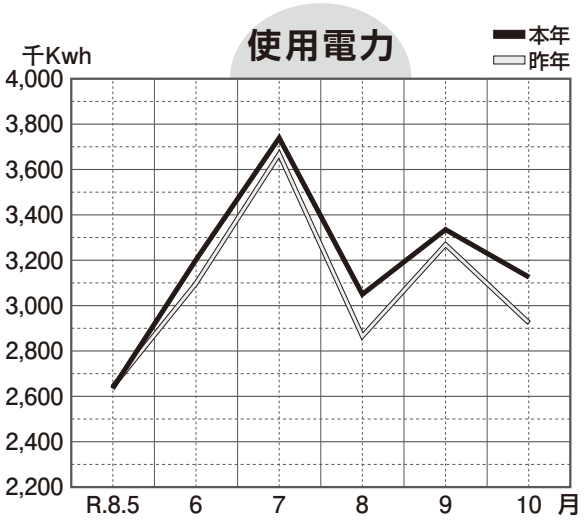
芯で捉えた白球が一直線に伸び、そのままネットに突き刺さる！ これだ。
頭の中のイメージと体の動きがピタリと重なり、意図した方向へ意図した通りの打球が飛んでいく。このたまらない爽快感があるからやめられない。
ポケットの小銭が尽きる頃になると、心地よい疲労感とともに、
頭の中もすっかりリフレッシュされていた。
よし、今日はこれで終わろう。マイバットをケースに戻そうとした、その時である。
「ここに駒田徳広の要素を取り入れたら、もっと良くなるんじゃないか？」
どこからか、そんな声が聞こえた気がした。おそらく天啓である。

チャリン　ガチャン

再びマシンのランプが点灯する。どうやら私は、本来意図していなかった第十一打席目を迎えることになったようだ。

令和8年10月分電力使用状況





SFの世界!? 核融合発電ってなに？（後編）

前編で核融合発電の仕組みを見てきましたが、現在の原子力発電と比べてどんなメリットがあるのか、そして今後の課題は何なのか見ていきましょう。

1. 核融合のメリット

核融合は核分裂のような連鎖反応を利用しないため、プラズマの維持条件が崩れれば反応が自然に止まるという特徴があります。

また、核分裂による原子力発電と比べて高レベル放射性廃棄物の発生を抑えられる可能性があり、発電時に二酸化炭素をほとんど排出しないことも期待されています。

2. 課題

一方で、実用化にはまだ多くの課題があります。

超高温のプラズマを安定して長時間維持する技術、核融合反応に耐えられる炉壁材料の開発、そして燃料となる三重水素を炉内で増殖・確保する仕組みの確立などです。

日本、米国、欧州などが参加する国際熱核融合実験炉（ITER）では、2034年の研究運転開始を目標としており、重水素と三重水素を使った核融合実験は2039年から開始する計画です。ITERは発電所そのものではなく、将来の核融合発電所につながる技術の実証を目指しています。

SF作品の中で描かれてきた「小さな太陽のようなエネルギー源」。

それが現実の発電技術になる日は、少しずつ近づいているのかもしれません。

行 事 予 定

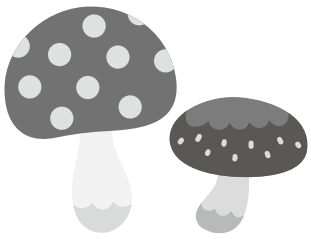
2026 11 November

16	月	臨時総会（12：00～） 役員会（12：50～）
17	火	油流出時訓練（12：00～）
18	水	
19	木	中小企業団体全国大会（熊本県）
20	金	
21	土	『組合休日』
22	日	
23	月	『勤労感謝の日』 『組合休日』
24	火	編集委員会
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	団地G（青年部合同） 理事長と語る会（青年部） 『組合休日』
29	日	
30	月	



2026 12 December

1	火	
2	水	
3	木	
4	金	役員忘年会
5	土	『組合休日』 研修センター定期清掃
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	『組合休日』
13	日	
14	月	
15	火	月例会 役員会



■ 12月の行事予定

12月19日🈂　団地G・忘年会

■ 10月度金属団地ゴルフ会

10月24日🈂　グリーンヒル関ゴルフ倶楽部

優勝　森田吉久（テクノ共栄）　2位　秋田隼輔（秋田鉄工）　3位　柳原弘幸（鵜飼）

G-MECCA

Gifu Metal Engineering Community Cooperative Association

https://www.g-mecca.jp





